

おどろきももの気
古事記の氣
 ～第9幕～

稲穂一粒一粒に込められた神意(ねがい)
天孫降臨

絵かき&歌うたい まりあ工房 あべまりあ

この地球「おのころ島」が永遠に安泰であることは天の神意(ねがい)

です。そのためには天神(あまつかみ)の御子(みこ)の国治めが必至となり、天照(あまてらす)さまは孫のニギノミコトを天降りさせることにしました。

「ににぎ」とは、太陽の恵みをいっぱい頂いて稲穂が「にぎにぎしく豊かに実る」という意味です。そのニギノミコトに天照さまが託したのは、今も皇室に代々伝わる「三種の神器」といわれる「勾玉(まがたま)」「鏡」「剣(つるぎ)」です。そしてもう一つ、天照さまは「稲穂」を手渡ししながら、「これを育ててあの瑞穂の国を繁栄させなさい」と、深い想いを込めて申されました。

ニギノミコトはたくさんの神々をお供につけて、出発の準備をしていました。

ふと、下の方を見ると、長～い鼻に目を赤く光らせた大男が突っ立っていました。天岩戸開きの時に、岩戸の前で裸踊りしたアメノウズメがニッコリ笑顔で「どなた様ですか?」と尋ねると、大男は言いました。



「私は、国神(くにづかみ)の猿田彦(さるたひこ)と申します。ニギノミコト天降りのことを耳にしましたので、道案内をさせていただこうとお迎えに参りました」・・・その後、水先案内の神さまとして有名になった猿田彦は今もたくさんの神社で祀(まつ)られています。

こうして猿田彦を先頭に、ニギノミコト一行は、八重(やえ)にたなびく雲をかき分けながら瑞穂の国を目指して降りてゆきました。

最初に降り立ったのは日向の高千穂の久士布流岳(くしふるだけ)でした。迎えに来てくれた二人の命(みこと)が、そこから更に先導して霧島の高千穂峰に案内しました。

「ここは素晴らしい。笠沙(かささ)の岬にも近いし、朝日もまばゆく光り、夕陽も美しい。山の幸にも海の幸にも恵まれている」と、ニギノミコトは大変喜んで、ここで天神(あまつかみ)の御子(みこ)としての務めを始めることにしました。

皇居では毎年5月に「お田植祭」があり、天皇陛下自らが苗を一本一本植えられ、11月には収穫を祝って、感謝のご報告とご奉納の「新嘗祭(にいなめさい)」があります。

天照さまは稲穂に次のように命じておられたそうです。

「成すべきことを成しなさい。そして輝きなさい。その魂を輝かせなさい」と。稲穂に、です。

だから稲穂の一粒一粒に天照さま(太陽)のエネルギーがしっかり入っているのです。

農家の皆さんがご自分のお仕事に誇りと信念をもって輝くこと、そして日本人が玄米をしっかり食べることが、日本国の大いなる底力になる、と私は確信しています。

天照(あまてらす)さまが稲穂(いなほ)に「成すべきことを成しなさい」と命じたように私たちも毎日玄米(おこめ)を食べて太陽のエネルギーをいただき、自分の魂を輝かせ、太陽のように明るいい心、ま～るいい心、温か～い心で世の中を照らす一人一人になってゆきましょう。